

全釧路情報

2016.3.11 No.34 全釧路教職員組合

総会化後はじめての定期大会① 全釧路教組の今後に展望が持てる討論でした

2月20日(土)は定期大会でした。これまで代議員制だった大会ですが、今回から総会制となっています。土曜授業と重なってしまった学校も多く、参加したくても出来ない組合員も多くいましたが、それでも、33名の参加、44枚の委任状で、大会は成立しました。

総会制となったことで、午前開催の短時間の総会ではありましたが、全部で17本の熱い討論で、組合活動について、とても有意義な論議ができました。



●「つながる」「集う」ことの意義

組合員が「つながる」、そして「集う」ことについて、多くの発言がありました。

「組合の中で悩みを話せることで救われている。話を聞いてもらえる場所があるということは大事だと感じられる」(阿寒支部倉持先生)、「組合の集まりに参加して、周りの先生から学ぶことができ、相談できるので、いろんな見方が広がる。」(白糠支部永井先生)といった発言は、厳しい職場環境の中であって、組合で「つながる」「集う」ことの意義を改めて確かめ合うものとなりました。特に永井先生は、組合で「集う」ことの意義を実感したことが組合加入へと繋がっているのです。

また、阿寒・鶴居や浜中・厚岸で合同の支部会議を開き、より多くの仲間と集うことで元気になったという報告もありました。その成果をふまえて、「来年度は『つながる』から『集う』にむけて取り組みたい。」(阿寒支部中川先生)との決意も語られました。

「分会だよりは5号発行した。自分自身も勉強になり、職場の先生方にも理解を得て署名に協力してもらえた。」(鶴居支部村田先生)、「同じ職員室にいるのに小学校の先生との関わりが少なかった。中学校内で、今の学校のままではダメだと話し、朝の打合せの中で中学校の話をするところから始めた。これからもつながりを大事にしたい。」(浜中支部山手先生)といった発言のように、職場のつながりの中で組合員が存在感を発揮していくことが、組合活動を進める上でも、職場づくりの上でも大切であると確認できました。



●上からの押し付け、トップダウンに対して

今、各学校では、トップダウンで押し付けられているように感じられることが増えています。特に、土曜授業については4支部(弟子屈、白糠、厚岸、釧路市)からの発言がありました。

すでに取り組んでいる支部からは「土曜日に一日日程はきつい。半日日程でいいのでは。子ども、教職員の負担にならないようにしたい。」(弟子屈支部高橋先生)、「(土曜授業の試行が)概ね好評だと市教委は言っているが、教職員や子どもの意見が取り入れられているか疑問。」「子どもの学習意欲に繋がらない。」「まともな授業にならず、必要性を感じない。」(釧路市支部藤田先生)との報告がありました。

また、新たに始まる支部からは、「五日間やるという日程のみが下ろされ、勤務態勢や内容など全く検討されていない。」「修学旅行、小中一貫教育も、全てがトップダウン」(白糠支部田中先生)など、民主的な話し合いを経ずに下ろされる様々なことに対する不安や不満が報告されました。

こうした情勢に対して、釧路市支部、標茶支部からは、地教委や校長会との懇談の様子も報告されました。「もっと情報交流して話し合い、いい方向を探っていく関係性を維持していくことが、これからの組合支部の活動の方向性として大切であると感じる。」(標茶支部釜萠先生)、「(災害時特別休暇について)校長会・委員会との間で共通認識を持つことができているので、他支部でもこのような関係性を築いてほしいと思う。」(標茶支部鈴木先生)と、関係づくりの重要性への発言もありました。

●「自分で決めたい」声をあげることについて

学校のトップダウンの状況とともに、世の中でも、民意を無視して国の形が変えられてしまいそうな情勢です。そうした情勢に対する組合員の主体的な取り組みが多く見られたことも、この1年間の特徴です。

「おかしいと思ったら声をあげないといけない。声をあげないと大事なことが決まってしまう。駅前の行動をして、投げかけて対話すると応えてくれる実感がある。」(白糠支部千葉先生)、「自分で決めたい。『はい』は言いやすい。『ノー』は説明しなければならない。自分で考えて『はい』『いいえ』と言える人間になりたいし、それでいいよと言ってくれる仲間の支え、つながりがある。」(釧路町支部柴田先生)と、声をあげることへの思いも語られました。また、「自分でも意見を言っているが、周りで知らない人がいると意見が通らないことがある。つながりを少しずつ作りたい。」(釧路町支部山神先生)と、意見を伝えるための関係づくりへの発言もありました。



●組合の取り組みについて、具体的な提起もありました

討議の中で、組合活動についての具体的な提起、要求も出されました。

- ①教育全国署名を夏休み前にもらえると、長期休業中に取り組める。
- ②支部で、老後の生活、年金などについて学習し、とてもためになった。全釧路でも学習を。
- ③4月新採用者向け組織拡大グッズの封筒をかわいらしくすることで、より訴えやすくしたい。

これらの3点について、新体制となった執行委員会で取り組み方を検討しました。

①については、署名の取り組み方について早めの提起をして、用紙が届いたらすぐに発送するようにします。

②については、教文部を中心に、これからの教文活動の中の取り組みを前向きに検討します。

③については、ピンク色の封筒を使用すること、全釧路教組のかわいいキャラクターを作り、そのキャラクターと柔らかいメッセージを表面に印刷します。全釧路教組のキャラクターは、釜萠副委員長が作成し、ただいま、名前を募集中です。

